

第 69 回北海道小学校長会総会・研修会

令和8年5月 11 日

ただ今、会長としてご承認いただきました、札幌市立美しが丘緑小学校長 稲上 敏男 でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。令和8年度の役員を代表しまして、ご挨拶申し上げます。

はじめに、本日、ご来賓といたしまして、北海道教育委員会 教育長 中島 俊明様、北海道都市教育長会 会長 山根直樹様をはじめ、私どもをご支援いただいております教育関係団体の皆様、そして、歴代の道小会長及び役員の皆様方にご臨席をいただいております。誠にありがとうございます。

また、全道各地より代議員・理事の皆様方にお集まりいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

北海道小学校長会は、昭和 32 年の発足から 69 年目を迎える伝統ある組織であります。これまで、北海道の教育が幾多の困難に直面する中、「正論を以って正道を歩む」という理念のもと、校長の職能向上と北海道教育の振興・発展を図ることを目的として、長きにわたり活動してまいりました。今後も、その伝統を大切に、912 名の会員の皆様と力を合わせ、一歩ずつ確実に前進してまいりたいと考えております。

現在、道内の学校現場では、いじめ・不登校等への対応をはじめ、特別支援教育の充実、働き方改革の実現、教職員の定数や処遇の改善、教員の人材確保と資質能力の向上、危機管理の対応など、緊急かつ重要な課題が山積しております。

また、昨年9月に学習指導要領改訂に向けた論点整理が、中教審の特別部会で示され、今年度中には答申が出される見込みですので、内容について理解を深めていく必要があります。

私たち校長は、このような教育課題や教育改革の推進に先頭に立って取り組んでいかななくてはなりません。

そこで、今年度、道小は「『チーム北海道』で未来への挑戦!～つながり、学び、声を届ける～」というスローガンを掲げ、活動に取り組んでまいります。

校長会の使命は、各学校の「教育の質の向上」にあります。今、各学校で行っている毎日の教育活動が、子どもたちの10年後、20年後の未来を創ります。各学校で、目の前にいる子どもたちが夢や希望をもち、様々な困難を乗り越え、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の作り手として成長していくために必要な教育活動を、全教職員で進めていかなければなりません。そのためにも、私たち校長が「チーム北海道」としてしっかりと「つながり」、共に「学び」、子どもたちの未来のために「挑戦」し続けることが重要です。

そこで、今年度の道小の活動の重点を4点に絞ってお話いたします。

まず、1点目は、「校長会の各研修会、研究大会の充実」です。

今年度は、全連小研究協議会北海道大会が札幌市で開催されます。昨年度の根室大会での大きな成果の一つである分科会でのICT活用をはじめ、「分科会の充実こそが最大のおもてなし」という北海道教育研究大会の精神を大切に受け継ぎながら、副主題の「ふるさとに誇りと愛着をもちともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」を目指します。現在、札幌市小学校長会の皆様と実行委員会を立ち上げ、緊密な連携と意思疎通を図りながら、大会の成功に向けて準備を進めております。全国の校長先生と共に、校長の職能向上と教育の質の向上を目指して研鑽を積む大会とするためには、札幌市小学校長会を中心とした「チーム北海道」の力が重要となりますので、ご協力をお願いいたします。

また、北海道大会では、文部科学省講話も予定しております。これからの教

育について研鑽を積む貴重な機会になります。

各研修会、研究大会を充実させ、子どもたちの未来のために学び続ける校長会を目指します。

2点目は、「授業改善による教育の質の向上」です。

昨年9月に示された中教審特別部会の論点整理では、①「主体的・対話的で深い学び」の実装、②多様性の包摂、③実現可能性の確保、の3つの方向性に基づく改善を三位一体で具現化されるべきもの、と提起しました。このうち、①「主体的・対話的で深い学び」の実装は、授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図るものであるとしています。また、授業改善に不可欠であるデジタル学習基盤の効果的活用は、育成すべき資質・能力が十分に意識されず「深い学び」につながっていない事例もあるなど道半ばである、としています。多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにしていくために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をさらに進化させ、教育の質を向上させることが求められます。そこで、新たな時代に求められる「学びをデザインする高度専門職としての教師」として、自らの授業力や指導力をより一層高められるような研修の充実や、人材育成に向けた取組の充実に積極的に取り組んでまいりたいと思います。

3点目は「教員の人材確保や処遇改善等について」です。

道小では、毎年、年度当初の定数欠教員や期限付き教員の不足状況について、各地区の校長会と連携して、調査、分析を行っております。各教育委員会では、人材確保のためにご尽力いただいておりますが、依然として教員不足の状況は続いております。今年度は、未配置校の対応として、担任を教頭や校長が代替している学校もあります。

また、20代から30代の若手教員の離職も増えております。勤務時間削減など働き方改革が進む一方で、保護者への対応に悩む教員の声も強まって

いるという報道もあります。

人材確保については、働き方改革と処遇改善を一体的に進めることが重要であるため、業務の改善や待遇の見直しなど、地域間格差や人的配置の問題が解消されるように、調査結果等に基づいた提案や要望を道や国に行ってまいります。また、各地区校長会とも連携し、道教委との意見交換会・各課懇談会等を通じて、学校の状況について伝えてまいります。

4点目は、「学校における働き方改革のさらなる推進」です。

各学校では、道教委が策定している北海道アクションプラン(第3期)の基本方針に則り、教育課程全般の見直しや、ICT を積極的に活用した業務の推進、専科教員の導入、外部人材の積極的活用など創意工夫をしながら取り組んでいるところです。

しかし、教職員一人一人が考える「明日を迎えるために安心できる準備」には差があり、その準備の差が働き方の差になり、「安定した学級経営」や「子どもたちの笑顔の差」、更には「働きがいの差」にもつながっているのが現実です。時間外在校時間の平均は一つの目安ではありますが、教職員一人一人の自宅での業務や、明日の授業や子どもたちのことを考えている時間など、「心が安らぐ時間」がとれているか、ということも考慮する必要があります。子どもたちの成長を第一に考えながら、教職員の「働きやすさ」や「働きがい」、そして「心が安らぐ時間」が少しでも長くとれることを目指して、学校現場と教育委員会が一体となって取り組むことができるような働き掛けを行っていきたいと考えます。

結びになりますが、今年度は、子どもたちの未来のために、道内に 20 ある各地区校長会とのつながりを大切にしながら、「『チーム北海道』で未来への挑戦!」を目指して、組織を活性化させていきます。また、北海道の教育の未来のために、北海道教育委員会、北海道中学校長会、北海道PTA連合会

を含めた教育関係諸団体とのつながりも大切にしながら、校長の職能向上を目指して挑戦し続けます。

ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。